

## 2025年度 東洋大学 IRニュースレター Vol.3 (通算第19号)

東洋大学「全国学生調査(第4回試行実施)」の結果  
—全国・大規模私立大学平均との比較—

分析担当: IR室 教授 劉文君



東洋大学  
学長・IR室長 矢口悦子

本号では、文部科学省および国立教育政策研究所が実施した「全国学生調査(第4回試行実施)」の結果をもとに、本学における学生の学びや経験の特徴をご紹介します。本調査は、全国規模で大学教育の実態等を把握することを目的としており、本学にとっても、学生の声を全国的な視点の中に位置づけて捉えることで、大学としての現在地を確認し、これから進むべき方向を考えるための重要な機会となりました。

調査結果からは、教え方の工夫に対する評価や教職員が熱心に教育に取り組んでいる点が全国平均をやや上回っていることが確認されました。また、海外留学・海外研修や英語による授業の履修といった国際的な学びに関しても、全国および大規模私立大学と比較して高い評価が得られており、本学がこれまで取り組んできた国際化の成果が着実に表れているものと受け止めています。

一方で、学修支援体制やインターンシップ、専門分野に関する学び、授業外学修時間の確保などについては、さらなる改善の余地も示されました。重要なのは、これらの結果を数値として捉えるだけでなく、学生一人ひとりの学びや成長につなげていくことです。本学では今後も、学生の声に真摯に向き合いながら、教職員が一体となって教育改善に取り組んでまいります。

### はじめに

文部科学省は、国立教育政策研究所と共同で、2024年度の全国学生調査(第4回試行実施)を実施した。本調査は、全国の大学2年生および最終学年を対象とするものである。実施期間は2024年10月から2025年3月までで、参加大学は540校、対象学部数は2,324学部、対象学生数は1,002,541人、有効回答者数は131,307人(2年生が52.6%、4年生以上が47.4%)であり、有効回答率は13.1%である。質問項目は、大学で受けた授業の状況、大学での経験とその有用性、大学教育を通じて身に付いた知識や能力、平均的な1週間の生活時間など、全5項目33問である。本学の調査対象学生数は15,571人で、有効回答者数は870人(2年生49.2%、4年生50.8%)となり、回答率は5.6%である。

以下に、各質問項目について、本学と全国および大規模私立大学(※)の平均と比較し、東洋大学の特徴を分析する。

※大規模私立大学:私立大学が設置し、大学2年生と最終学年の在籍者数の合計が800人以上の学部を対象とした集計(文部科学省)より

## 問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

図1に示すように、本学の平均値は、「予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される」項目で3.1となり、全国や大規模私立大学（ともに3.0）より高い。また、「理解がしやすいように教え方が工夫されていた」では、3.2となり、大規模私立大学と同じく全国（3.1）より高い値を示している。

図1 大学で受けた授業の状況



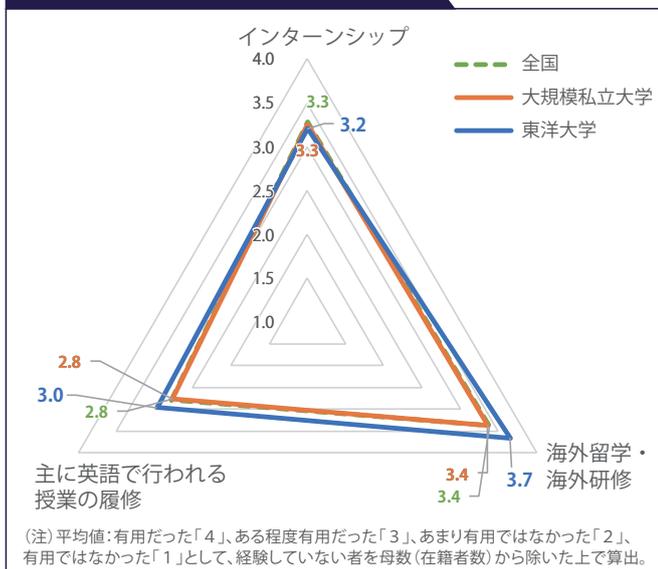
「質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある」については、2.9であり、全国および大規模私立大学と同じ水準である。一方、「課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される」や「グループワークやディスカッションの機会がある」については、それぞれ2.5、3.0となり、大規模私立大学と同じく、全国の平均（2.6、3.1）よりも低い値である。

また、「ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある」の平均値は2.3であり、全国や大規模私立大学の平均（2.6）よりも低い。学部別の比較から、特に文系の一部の学部において平均値が低いことが明らかになっている（データ省略）。

## 問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。経験していない場合は⑤を選択してください。

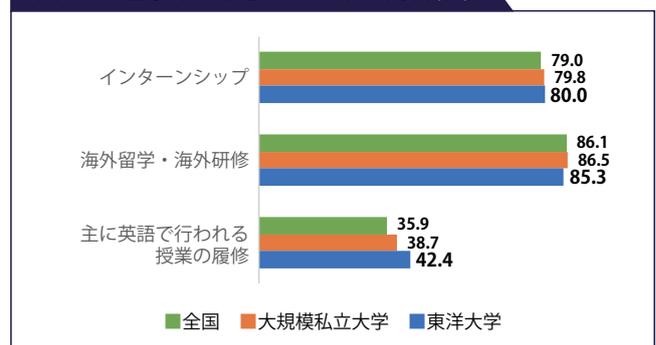
大学在学中の経験の有用性については（図2-1）、本学の平均値は、「海外留学・海外研修」および「主に英語で行われる授業の履修」において、それぞれ3.7、3.0である。これらは、全国平均の3.4、2.8や大規模私立大学の3.4、2.8より高い。一方、「インターンシップ」については、本学の平均値が3.2であり、全国や大規模私立大学の平均値（3.3）より低い。

図2-1 大学在学中に経験への評価



「経験していない」と回答した割合について（図2-2）、本学は「インターンシップ」および「海外留学・海外研修」に関して、それぞれ約80%、85%の学生が経験していないと回答しており、これは全国や大規模私立大学とほぼ同じ水準である。また、「主に英語で行われる授業の履修」については、42.4%の学生が経験していないと回答しており、全国平均の35.9%や大規模私立大学の38.7%よりやや高い。

図2-2 在学中に経験していない割合(%)



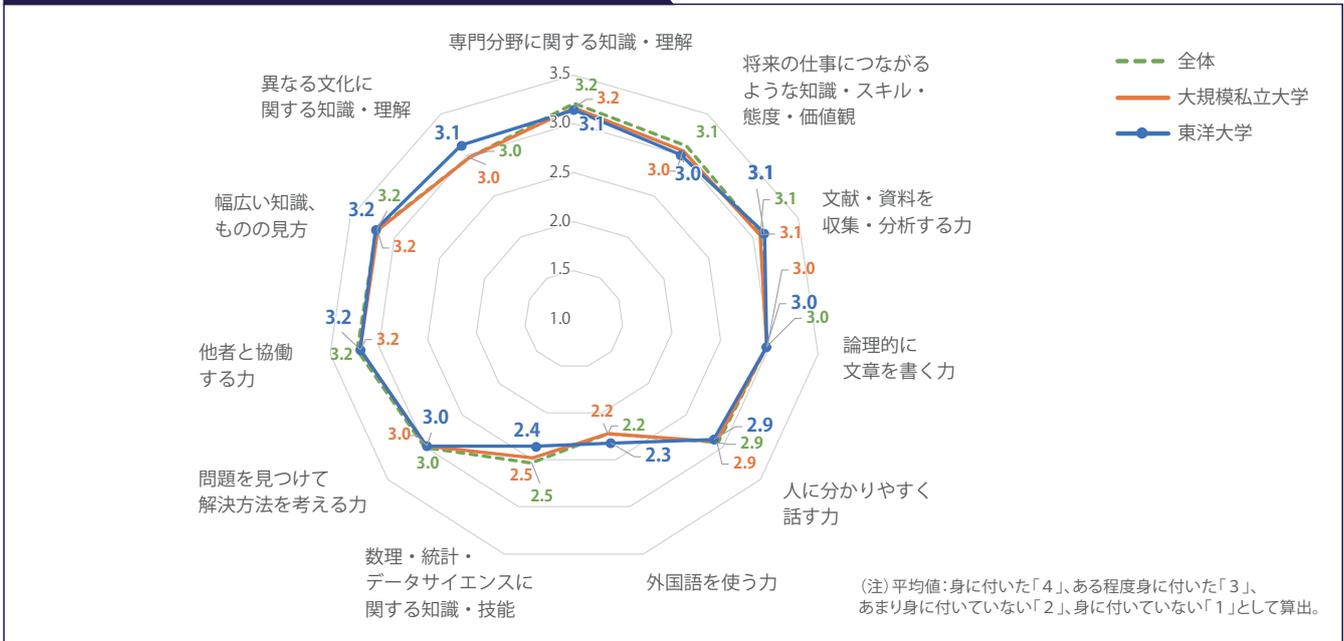
### 問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。

大学教育を通じて獲得できる知識や能力について(図3)、本学の平均値は、「異なる文化に関する知識・理解」および「外国語を使う力」において、それぞれ3.1、2.3となっており、全国平均や大規模私立大学の平均値(3.0、2.2)より高い。

また、「文献・資料を収集・分析する力」(3.1)、「論理的に文章を書く力」(3.0)、「人に分かりやすく話す力」(2.9)、「問題を見つけて解決方法を考える力」(3.0)、「他者と協働する力」(3.2)、「幅広い知識、ものの見方」(3.2)についても、全国や大規模私立大学と同程度の水準にある。

一方、「専門分野に関する知識・理解」(3.1)や「数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能」(2.4)は、全国や大規模私立大学の平均値(3.2、2.5)より低い結果となっている。なお、学部間での差も見られる(データ省略)。

図3 大学教育を通じての次のような知識や能力について



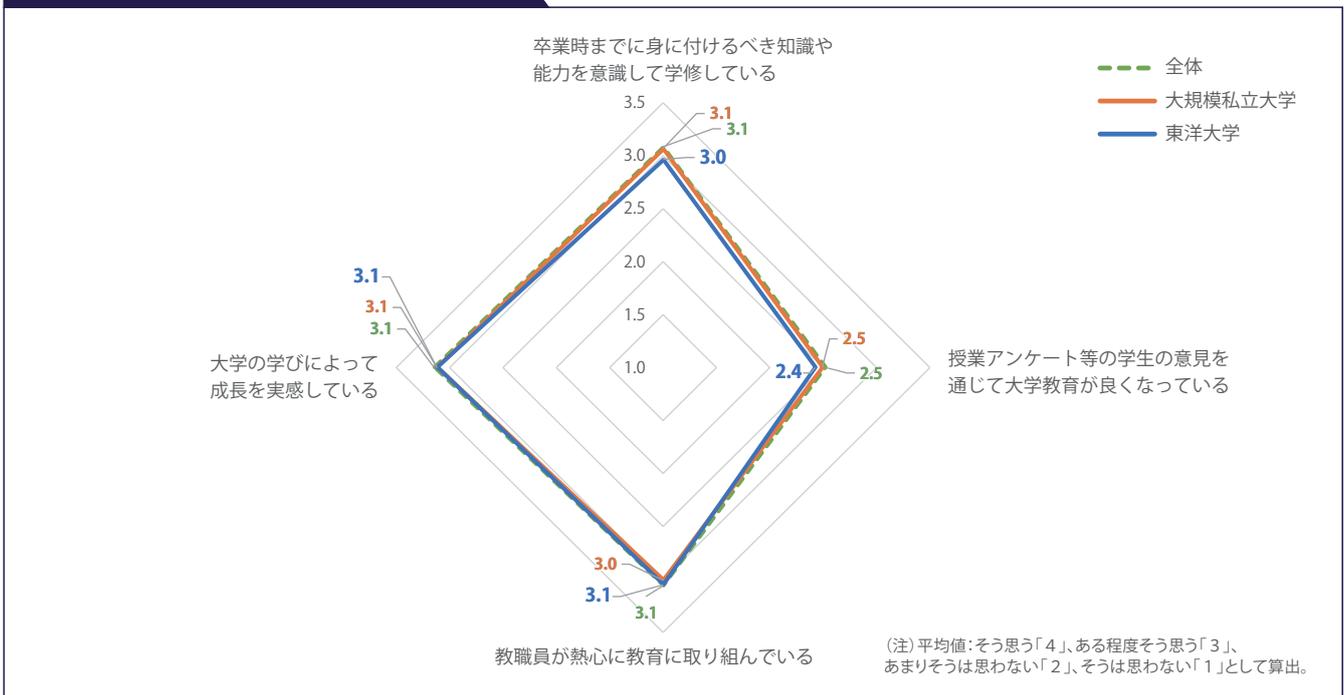
### 問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

大学での学び全体を振り返って思うことについて(図4)、本学の平均値は、「教職員が熱心に教育に取り組んでいる」(3.1)であり、全国平均と同水準で大規模私立大学(3.0)よりも高い。

「大学の学びによって成長を実感している」については、平均値は3.1で、全国や大規模私立大学と同じ水準である。

また、「卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している」(3.0)や、「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている」(2.4)については、全国や大規模私立大学の平均値(3.1、2.5)よりも低いが、学部間で差が見られる(データ省略)。

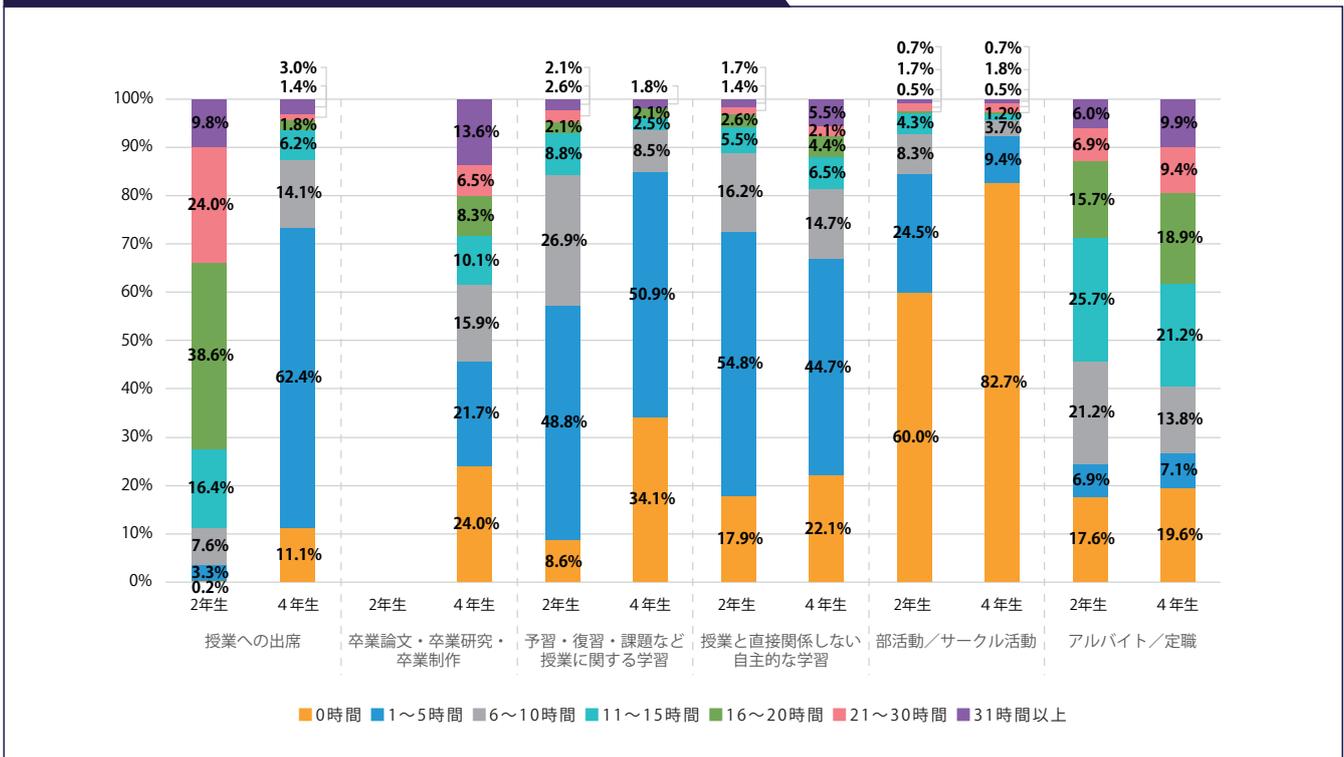
図4 大学での学び全体を振り返って思うこと



## 問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

図5は、本学の2年生および4年生の授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間を示している。本学における「授業への出席」は、2年生で<16時間以上>が72% (全国の2年生は67%)、4年生では<5時間以下>が74% (全国の4年生は65%)であり、授業出席時間は2年生が多く、4年生は少ない傾向が見られる。「卒業論文等」については、4年生で<16時間以上>が28% (全国の4年生は33%)と、全国平均より少ない。「授業に関する学習」は、2年生で<5時間以下>が57% (全国の2年生は59%)、4年生では85% (全国の4年生は80%)となっており、すなわち「時間過少」の割合が2年生は全国より少なく、4年生は全国より多い傾向にある。「授業と直接関係しない自主的な学習」は、2年生で<5時間以下>が73% (全国の2年生は82%)、4年生では67% (全国の4年生は68%)であり、2年生の方が多く、4年生は全国平均とほぼ同じである。「部活動/サークル活動」については、2年生で<0時間>が60% (全国の2年生は52%)、4年生でも<0時間>が83% (全国の4年生は73%)であり、いずれも全国平均より参加しない割合が高い。「アルバイト等」は、<11時間以上>について、2年生が54% (全国平均は49%)、4年生が59% (全国平均は51%)です。2年生、4年生ともに全国平均より高い割合となっている。

図5 授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間(東洋大学)



## 「ポジティブリスト」の本学の結果について

ポジティブリストは、「全国学生調査(第4回試行実施)」の結果において、学生から高い評価を得た全国上位15%以内の大学・学部を分野別にまとめたもので、全国の教育改善や大学選びの参考情報として文部科学省が初めて公表した。本学の社会学部は、以下の質問項目でランクインしている。

- ・問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。Q15:文献・資料を収集・分析する力:第8位
- ・問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。Q26:教職員が熱心に教育に取り組んでいる:第27位
- ・問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。Q27:大学の学びによって成長を実感している:第18位

## まとめ

今回の第4回調査および第2回、第3回の結果において、本学と全国および大規模私立大学とを比較した結果、いくつかの特徴が認められる。まず、2年生においては、全国の2年生平均よりも「授業への出席」時間が長い傾向が見られる。特に、「予習・復習・課題など授業に関する学習」が5時間以下の学生は、全国と比べて少ない。また、獲得した「異なる文化に関する知識・理解」「外国語を使う力」、経験した「海外留学・海外研修」「主に英語で行われる授業の履修」などの項目において高い評価を得ており、国際化において明確な成果を示しつつある(IRニュースレター2022年度Vol.3、2023年度Vol.3を参照)。

さらに、今回の調査結果からは、「教職員が熱心に教育に取り組んでいる」点について、全国や大規模私立大学と比較して高く評価された。加えて、学部・分野別の「ポジティブリスト」では、社会学部が「文献・資料を収集・分析する力」「教職員が熱心に教育に取り組んでいる」「大学の学びによって成長を実感している」の各項目でランクインした。

一方、「授業に関する学習」時間は必ずしも満足できる状況ではなく、特に4年生の学習時間や「卒業論文等」など、授業外学習時間をさらに高めることが課題である。また、授業の状況における「ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある」、在学中の経験の「インターンシップ」、身に付いた知識や能力の「専門分野に関する知識・理解」「数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能」については、学部別の差異が見られ、学部別の対応策を講じる必要がある。「部活動/サークル活動」が少なく、「アルバイト等」が長いことについては、本学独自調査と併せて、キャンパス別や第1部・第2部などの視点からさらに分析すべきである。

今後は、調査結果を学内で教職員にどのように周知し、授業改善につなげていくかについて、全学で議論することが求められている。

※詳細な分析は「新ファイル管理(学内)」で公表

URL: [https://drive.google.com/file/d/1-Uas\\_DXUIN42ieaORBsMmqybtTiloRxx/view?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/file/d/1-Uas_DXUIN42ieaORBsMmqybtTiloRxx/view?usp=drive_link)